

テーマ

「大発見！海・川・山のお宝探し 自然体験を通して」

公民館等名

大田市 中央公民館

テーマの背景

親子で野外活動を通して、身近な動植物などを見たり捕まえたりすることにより、自然の豊かさや自然体験の楽しさを体感することで、自然を大切に思う心を育み、環境について理解を深める。

また、自分の住んでいる地域に誇りと自信を持ち、素晴らしい環境を後世に残すよう、実践的な活動ができる人材を育成し、ふるさと教育につなげる。このためには、中・高校生や地域ボランティアとともに、活動の輪を広げて行く。

実際の取組

取組内容：「親子自然たんけん隊」

<取組の概要>

・5月25日(土) 17:00～20:00 「海たんけん 海ホタル観察」

夕方5時、久手漁港に集合。海の中にはどんな魚がいるか、それぞれの家族に釣り竿を渡し、魚釣りを体験する。釣果は少ない。

今日の目的は「海ホタル」観察。各自持参のおにぎり、公民館で用意した味噌汁で夕食を取る。7時になるとあたりは暗くなり、波止場付近に移動。波打ち際を覗き込むも海ホタルは発見できなかった。5回目の挑戦も惨敗に終わる。今回は東部公民館と共催したおかげで30組110名と交流ができた。



・7月28日(日) 9:00～13:00 「かっぱの川あそび」

9時半、親子15家族と、スタッフ合わせて59名が三瓶ダム付近の川に集合。準備運動の後、ライフジャケットを着けて恐る恐る川に入る。次第に慣れてきたのか、水に潜ったり浮き輪で川下りをしたりと、歓声が上がっていた。この後、ソーメン流しと、スイカ割をした。最後に三瓶サヒメルの中村唯史先生より、「この川の水は、下流の大田町で飲料水として使われている、大切な水」「川の中には、ウグイ、ヨシノボリ、サワガニ、ヤゴなどがいる」などの話を聞いた。



ふだん川遊びをしたことがない子ども達。自然の中で思いっきり遊ぶことができた。

<取組の概要>

11月9日～10日（土～日）一泊二日「さんべ山でお月見」

参加者24名は三瓶青少年交流の家に集合。オリエンテーション後、夕食を食べ、午後7時より幸増千世主事による、折り紙でウサギを折り、うちわにお月さんを貼り付けてできるゲームをした。この後、中村唯史先生より宇宙の様子や、地球と月の距離など、神秘に満ちた話を聞いた。外は真っ暗になり、いよいよ「お月見」。しかし、直前の雨で曇り空。それでも雲の切れ間から大きな月が見えた。



<成果と課題>

- ・親子での活動を通して、自然という本物に出会えたことで事業の大切さを実感できた。
- ・若い保護者世代とともに環境について考えられたことは、今後、生きていくうえでも大切である。
- ・小学生の参加者が低学年のため、自然のすばらしさや厳しさを知ることは出来ても、環境問題につなげたり、後世に残したりする取組とはなりにくい。自然を大切にし、どうすれば環境を守る意識を持たせるかが課題である。しかし、この年齢は体験することでよいと感じている。今後、若い保護者世代が学びを生かして、子どもたちにそういった思いを伝えてくれることを期待している。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

- ・年間テーマを決める。（例：水：降った雨はどこに行くのか？）年間活動として、山から川、海までつなげた活動を考え、環境問題につなげる。
- ・多くの親子が参加する場合は、駐車場・トイレなどがある安全な場所を選ぶ。
- ・移動手段の確保ができる。
- ・中学生、高校生、大学生のボランティアを募り、リーダー的な役割を持たせる。
- ・親子活動のため、体験したことを親子で共有することができる。
- ・単館だけでは広域的に活動するのは難しく、このため他の公民館や団体と連携することによって、知らない地域の情報も得られるし、事務的労力も緩和され、幅広い活動になる。

今後の展望

- ・保護者の感想～「子ども達そして親も、ワクワクする色々な体験が出来、とても嬉しく思いました。今後も続けていってほしいと思います。」
- ・低学年児童の感想～「楽しかったです。来年もしたいです。魚釣りは初めてだったけど、出来てよかったです。」
- ・今年度は幼児や小学校低学年兄弟の保護者の参加が多かった。自然の中でいろいろな体験をすることはとても大切と考えている。中・高校生ボランティアや地域指導者を募り、次年度も親子体験活動は継続して行っていく。